

1. 出席者

運営協議会委員（5名）

雪嶋会長・宮内委員・太田委員・戸川委員・一見委員

図書館側委員（4名）

野田中央図書館長・柴資料係長・磯上利用者サービス係長・柳川こども図書館長

図書館事務局

松田副参事・鈴木副館長・東管理係主査・田辺管理係主査

2. 場所 中央図書館4階大会議室

3. 内容

(1) 開会

(2) 議題

協議事項

・これからの図書館のあり方について

（新中央図書館における望ましいサービス内容の提案）

報告事項

・平成21年度新宿区立戸山・北新宿・中町図書館指定管理者の管理業務に係る事業評価について

【 会長 】

ただいまから平成22年度第4回図書館運営協議会を開催します。

開会に際して、3月11日に発生した東日本大震災で亡くなられた方のご冥福をお祈りしたいと思います。それとともに、被災された皆さま方にお見舞いを申し上げたいと思います。東京でもだいぶ大きな影響がありましたので、皆さま方も大変苦勞されたかとも思いますが、この場にご出席いただきありがとうございました。

本日の議題ですが、協議事項と報告事項があります。まず、協議事項ですが、皆さま方に新中央図書館における図書館サービスの提案等をお伺いして、ご意見をいただきます。そして本日の配付資料の、1資料収集と提供、2情報提供・相談と交流、3子どもへのサービス、に対する各委員の提案について、より内容を深める、あるいは質疑応答をするということで議論していきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

まず、お手元にお配りしてあります、皆さま方からいただきました提案ですが、提案された委員から直接内容をより詳しく伺いたいと思います。そして、それについて質疑応答を行い、それ以外の提案がありましたら、さらに追加していきたいと思います。本日の議論としては、何かに

集約していくというよりは、より多くの提案をいただくという内容にしたい。多くの提案をいただいた中で、これから先平成23年度、24年度と継続して議論し、具体的な内容にしていきます。

では、まず「1 資料の収集と提供」という項目です。この中でご意見をいただいたのは、「(1) 多様な分野と幅広い分野」、「(2) 地域資料」です。「(3) コミック」という部分ですが、これは若干、地域資料の意味も入っています。

まず、この「(1) 多様な分野と幅広い分野」について提案いただいた委員の方が今日のご欠席なので、読み上げるだけで質問等はできませんが、ご意見をいただくことは結構です。

まず、職業に対する事前知識やスキルアップのための各種講座ということです。

もう一つが、0～3歳児くらいまでの子どもを育てる保護者向けに保育園を紹介するビデオを作成して、貸し出しをする。特養ホーム、福祉施設などでは福祉施設の様子をまとめたDVDを提供していくという、情報提供になるのではないかと思います。資料収集と提供という部分でこういうご意見をいただいています。これについては質問できませんので、皆さま方からご意見をいただくことにしたいと思います。

特にないようでしたら、次へ行きます。この部分については、これから先まだまだ色々なサービスの提案があると思いますが、実際どのようなことを図書館でできるのかということについて、これから検討されていくのではないかと思います。

次の「(2) 地域資料」です。これが一番、委員の方から多くの意見が出た部分なのですが、まず新宿歴史博物館との情報交換を密にした、新宿の歴史探索サービスということです。これも今日は提案された委員の方がご欠席です。

2番目です。地域資料の中に漫画が入っていますが、地域資料、漫画資料収集について、都民が参加しての活動等を含むということです。これは戸川委員のほうからいただきましたが、もう少し具体的にお話しいただければと思います。

#### 【 運協委員 】

私が考えたのは、区民も参加しての活動というのには、まず図書館からの呼びかけもあるでしょうし、あるいは各種講座を通じて区民の人たちに関心をもってもらい、そしてそういったものに集まった人の中から、よりそういった活動へつながる方が出てくるかと思います。区民に対してのそういう呼びかけが欲しいという意味で書きました。

#### 【 会長 】

これは具体的に区民から資料を提供していただくという話ではないのですね。

#### 【 運協委員 】

そういうこともきっと発生してくるかとは思いますが、でも、まず地域資料に関して、特に漫画資料については散逸しているものなどもあるということを知りましたので、区民の人たちに現状を知っていただくことがまずは大事なかなと思っています。

#### 【 会長 】

ほかの委員の方で何かこれに関していかがでしょうか。(私からで恐縮ですが) 地域資料とい

う場合に、区民も参加しての活動とは具体的にはどういふことですか。

【 運協委員 】

文豪や文化人が多く暮らした地域でもある、この新宿地域で、もちろんその作品を通してであるとか、あるいは新宿ゆかりの人たちの講演であるとか、いろいろな発表機会をもち、区民がより新宿区の文化に興味を持てればいいかなと考えました。

【 会長 】

ありがとうございました。現状はどのような収集をされているのですか。

【 図書館委員 】

地域資料につきましても、夏目漱石などは集めております。それからホームページでも、ゆかりの人物データベースがあり、新宿区ゆかりの作品から人名が選べるなど、ホームページ上で検索できるサービスも行っております。

【 会長 】

それをさらに継続し拡大していくということですね。ありがとうございます。では、その次でよろしいでしょうか。

区内の地場産業、伝統産業等の情報収集およびテーマ展示。赤トウガラシや染色、つまみかんざし等と書いてあるのですが、具体的にはどのようなことですか。

【 運協委員 】

地域資料の中にもありますが、地域の産業で印刷、出版、染色などは関連資料などもあります。私はこの間から新宿区の冊子作りのために、「子ども劇場」など色々なところ取材させていただいております。例えば、この赤トウガラシというのは、内藤新宿で従来ずっと地場産業としてあった作物の一つです。今もそれを伝えていくグループがあって、赤トウガラシを分けてあげたり、色々な形で活動しています。多分、これは区の担当者の方も関わっていると思うのですが、せっかくそういうものがあるのだったら、一つの伝統産業として取り上げていくのも面白いかなと思います。これは結構、お母さま方に広がっているようです。染色やつまみかんざしについては、もう皆さんよくご存じだろうと思いますので、その辺の新宿の独自性のある文化、地場産業というものを子どもたちに伝えていきたい。特に染色でいうと、「子ども劇場」でお手玉作りをしているのですが、江戸小紋であるとかいいものを伝えていきたいということで、色々なクラブ等に声をかけて作って、手作りのお手玉で子どもたちを楽しませています。そういうものも取り上げていくと、より身近なものとして提案できるのかなと思いました。

【 会長 】

地場産業、伝統産業に関する資料収集ということでよろしいのでしょうか。

【 運協委員 】

そうですね。新宿内のやはり独自性のあるものです。もちろんこれ以外にも沢山あると思います。それも含めて、ぜひテーマ展示もやってもらいたい。

【 運協委員 】

主題別に議論しているところから少し外れますが、新宿区としては今言ったような資料をそん

なに持っているのですか。テーマの冊子体や図書になっていますか。つまり新宿というくくりで、本など出版物になっていますか。

【 図書館委員 】

印刷などはきちんと本になって、印刷業組合の資料にあるかと思います。全般的なものは、例えば文化観光国際課が作っている冊子などを地域資料として収集しています。

【 運協委員 】

わざわざ図書館側が作るというのもとても大変なことです。これ以外にも実際に地域資料の冊子も含めて収集していただければ、無理のない形であるものを収集していくことができます。区で作った冊子もそれぞれの部署に多分いろいろあると思いますので、企業年鑑ですとか、それも含めて収集してほしいです。

【 図書館委員 】

企業関係でしたら、角筈図書館で区内の企業の冊子を集めておりますので、そういった呼びかけはしております。

【 運協委員 】

ただ、それを一つの図書館だけにとどめておくのではなく展開していく、そういうことをちょっと考えていただければいいなと思います。

【 図書館委員 】

地域の文化財という観点から、文化観光国際課と連携することによって、そちらのほうで集まる資料を広く、図書館で情報発信させる。もちろん本として出版しているものはなるべく集めて、可能な限り情報提供していく。それと同時に図書館が収集するというのではなくて、今、運協委員のほうからもお話がありましたが、関連する所と連携して、そこに集まっていく資料を、新宿に関わるものは特に可能な限り多く集め、それを身近な図書館として情報発信していく。このような姿勢で今後臨んでいきたいと思っています。地域の文化財ということで内藤新宿の赤トウガラスの話もありましたが、そういった資料を私どもも収集し、皆さんに情報提供していきたいと思っています。

【 運協委員 】

今、図書館委員がおっしゃった姿勢には賛同します。

今おっしゃったように、すべての新宿区の各地域館均一に資料を置けという時代ではない。ですからどこかが集中的に収集して、必要なときにはそこが貸し出しする。同じようなものをどこでももっているというのが昔の図書館のあり方だったのだろうと思うのです。そういうことはやめるようにしたらいかかかなと思っています。

【 図書館委員 】

せっかく地域に8館ありますので、やはり特色を出していく。例えば、落合の文化は西落合の図書館が一番もっている。夏目漱石に関するものは鶴巻図書館が一番もっている。そのように館の特色を生かしながら、中央図書館としてコントロールしていきたいと思っています。

【 会長 】

ありがとうございました。では、もうひとつですが、国内のNPO、各ボランティア団体の情報の提示ということで、ネットワーク協議会、登録団体以外のところで、各講座等の情報とはどのようなことを指していますか。

【 運協委員 】

今、新宿区の庁舎では、受付から入って、左にNPO関係の協議会ができています。今、NPOや色々なボランティア団体がさまざまな形で、従来行政がやっていたようなものも含めて、ずいぶん活発に活動しているという状況があり、この協議会自体も、新宿区に登録されているものは500ぐらいあったかと思います。NPOの中には一人暮らしの老人の方にお声かけをするNPOもあれば、非行少年の親御さんが作られたNPOもあり、あるいは「子ども劇場」、「おもちゃ美術館」いったNPOだとか、色々な形の組織があります。図書館は色々な情報の発信と収集の拠点でもあるし、子どもたちの支援というのも謳っていますので、そういうNPO、ボランティア団体を何らかの形で、各図書館で検索するなり、周知できるようにする。色々なそういうネットワークの情報というものも、図書館で検索して、どういう活動をしているのかわかると、結構役に立つかなと思っております。

【 会長 】

ネットワーク協議会に登録されているというのは、新宿区でされているということで、それ以外だったらどのように必要な情報を得るのですか。

【 運協委員 】

登録団体は会費、入会金等いろいろ必要です。ですから、まだ入っていない団体も結構いらっしゃる。地域調整課に行かれたら、各団体とそれ以外の団体も多分把握できる。そういう資料を、各団体は作っていますので、収集もできるのかなと思っています。また、NPOやボランティア団体が頻繁に開催する講座情報も、常に図書館で提示してくださると、すごく役に立つかなと思います。

【 運協委員 】

今の意見ですが、図書館が全面的に情報提供をやっているところを作ること以上に、図書館の今のスタッフがもっとやらなければならない図書館本来のことがあると思うのです。ですから、地域調整課に情報提供してもらい、ボランティアがそういうところをまとめて、地域調整課と調整して、図書館のホームページから発信する。地域調整課に登録してください、というようなことをすべきであって、図書館が何でもするのは潰れてしまいます。

そういう行政との関連は今までも密にされていたと思いますが、提案からより、もらうという形の積極的な情報提供、どのような構成、お金で、どういうところに特色をもって活動しているかという基本的な項目を一番にして登録し、そして情報提供をしてもらうということが必要です。

新宿の図書館を通して、NPOの育成、活性は現段階では難しいのではないのでしょうか。

【 運協委員 】

窓口として、ひとつ入れてみるのはどうでしょうか。

【 図書館委員 】

先ほどお話ししましたが、地域調整課で区内で活動しているNPO等の協議会を作って、周知度を図ってこうという動きになっていますので、われわれはその課と連携することによって、図書館で周知し、情報提供していく。また、地域調整課が作ったデータにホームページ上でリンクをはれば、図書館からそこにたどり着くこともできます。そうした身近な情報を活用していくために、われわれに何ができるかということになりますと、様々な団体との連携が必要であるということで、今回の基本計画にも書かせていただいています。具体的には、様々な課とこれから連携を進めていきたいと考えています。

【 会長 】

この中の最初に各種講座というものもありまして、図書館が生涯学習講座的なものの情報の窓口になればいいのではないかと思います。図書館で実際に何でもかんでも講座をやるということは難しいかと思います。

もうひとつですが、伝承文化の情報収集と展示ということですが、これをもう少し具体的にご説明ください。

【 運協委員 】

例えば、私は新宿区独自の昔話はないのかなと思い、大久保図書館でいくつか本を見つけ出しましたが、郷土史等の中に伝えられた昔話だとか、その辺りの情報が果たしてあるのかなのかよく分からない。それはもちろんお話だけに限らないで、色々な技術に関してもそうですけれど、せっきやく、新中央図書館ができるのであれば、その辺りを掘り起こしていただきたいと思い、提案させていただきました。新宿独自のそういう文化として連なってきているものはあるのかとか、特にお話関係について見つけようと思いましたが、なかなか見つけられなくて。

【 会長 】

これは要するに情報収集ですね。展示というのは、具体的にはどういうことですか。

【 運協委員 】

せっきやく収集されたのであればどこにあるかという情報がほしい。もちろん各図書館のスペースも限られていますので、さっきおっしゃったように大変な負担を強いることはできるだけ避けたいと思います。皆さんがよく知っているようなものであればいいのですが、あまり知られていないものについては、例えばどこどこ博物館で今、展示会をやっているとか働きかけてもらい、何らかの形で無理のない程度で掘り起こしていただけるといいと思いました。

【 会長 】

要するに、展示そのものを図書館がやるというのではなくて、展示情報を発信することですね。

【 運協委員 】

先ほどからお話が出ている各図書館、地域館の特色を活かすということと、あまり多大な労力をそれらに費やすのはおかしいという話がありましたので、ちょうど戸山図書館のように小さなコーナーでもいいので、1カ月くらいでもやっていただければいいなと思っています。ただ、やはりすべてのものをやるというのはとても大変なことなので、わたしたちがボランティアとして

そういうところに関わらせていただいて、間をつないだり、展示をしたり、あるいはその展示についてのコメントを入れたり、時間があればそこで説明をしたり、そういうこともわたしたちの手で可能であればできるので、できるだけ利用者の目に触れさせていただきたい。特に昔話とか伝承文化になりますと、あえて大人が伝えていかないと、子どもたちがみずから検索して探すということは難しそうなので、そういう仲立ちなどが必要かなと思っています。

#### 【 会長 】

展示というのは、図書館の通常の業務の中にもありますのでできるのではないかと思います。しかしそういう展示スペースが図書館の中になくてできない。ですから、サービスとしての提案とすれば、むしろそういう展示スペース、広報スペースなのか、かっちりとした展示ホールなのか分かりませんが、そういうようなスペースが必要ではないかということは提案してもいいと思います。大きな展示ホールは難しいと思いますが、割と気軽に色々な形の展示ができるようなフリースペースは必要だと思います。その中に伝承文化というようなものが展示されるという、そういうコンテキストかなと思います。

ですから、この地域資料というものの情報収集、あるいは資料収集、それからこれまであまりそういう情報があったかどうか分からないようなものについて、新宿区の他の担当する部署と連携し、そういうところから情報提供してもらおうということです。

または伝承文化、情報を集めること、それを展示すること、展示といっても別に現物を展示しなくても、ホームページ上で閲覧できますので、さまざまなやり方をサービスとして具体化していただければと思います。

あと、ここの中にコミック、行政資料というのがあり、この項目については特にご意見がなかったのですが、コミックについては、先ほど漫画資料の話がありましたけれど、それとの関わり以上にもっと図書館サービスとして、決定的提案というのがあれば、出していただきたいと思います。コミック、あるいは行政資料についてです。

私からですが、行政資料について、今現在行政発行資料収集をされるかということもありますけれど、今後、新中央図書館の中に公文書の収集保存という動きが上がっていると思います。その関連というのはかなり重要ではないかなと思います。この行政資料というものについて、どこまでの関与を想定しているかということですが、新宿区で、現場で使わなくなった、要するに保存年限の切れたものを保存するという公文書の部分と、もう一つは今現在、新宿区内で刊行される、さまざまな行政資料の収集、それから提供という、二重になるのではないかと思います。これについて今後かなり議論をしていく必要があるのではないかと思います、その辺はいかがでしょうか。

#### 【 図書館委員 】

この辺はまさにこれからの検討課題というところですね。例えば行政資料については幅広く新宿にゆかりのあるものは他館と連携しながら、情報発信の場として図書館を充実させていく。これは一つの立場としてあります。

もう一つは、公文書として保存年限の切れたものをどう発信していくのか。これは現在、総務

課が所管してしまして、総務課との連携、あるいは考え方をどうするのかということは、区としてもまだ定まっていません。今後、これを図書館として発信していくことになるのか、あるいは区として別の部署がその建物の一面を借りて、情報発信の場としてやっていくということになるのか、そこのところがまだきちんとした考え方になっていません。発信していこうということは明確になっていますので、具体的にどのような形で、どういうものについて発信していくのかについては、また考え方や方向性が見え次第、こういう場でもきちんとご報告させていただきます。

【 会長 】

ぜひお願いいたします。非常に重要なサービスだと思っています。

【 運協委員 】

この保存資料の場合、図書館に置いていただいた行政資料に関しても、保存期間が何年と細かくなっているのですよね。

(「はい」の返事)

【 会長 】

「資料収集と提供」という部分については、以上でよろしいでしょうか。ここも今後まだ幅広い議論をしていきたいと思います。

では、次に、「2 情報提供・相談と交流」です。この中は、(1) 区民の情報コンシェルジュ、(2) 区民の課題解決支援、(3) 魅力あるイベントの実施、(4) 情報の生産・発信・交流の支援とあります。

まず、「(1) 区民の情報コンシェルジュ」というところですが、ここでご提案いただいたのは区の特徴・特徴を出した情報マップの収集と提示、提供ということです。収集ということについて、委員からどのようなことをイメージしているかを説明していただけますでしょうか。

【 運協委員 】

これは千代田図書館をイメージしています。あそこは古書店街を抱えていますので、古書店街とそれから飲食店について、コンシェルジュの方たちが詳しく調べてくれ、図書館にも入りやすく初めて訪れた人に即、親近感を沸かせるようなやり方をされていて感心した記憶があります。新宿区でいいますとラーメン激戦区とか、あるいは韓国料理とか、そういうところに、今、大勢の方たちが来ておりますのでその辺りだとか、あるいは古書店街が早稲田にありますので、もし窓口辺りにチラシとか何かを置けるようであれば、入れてくださったほうがより敷居が低くなるかなと思います。「あそこに行けばそういう資料があるぞ」ということで、図書館に今まで来たことのない人が来館したくなる、あるいはツイッターとか、色々なもので話題として入れてもらうのも一つあるかなということで入れました。

あと、アーキテクトとか、ビルマップなど、商業ベースの情報を書きましたのは、先ほど申し上げたNPO、ボランティア団体などは事務所がないとか経済的に苦労してやっていらっしゃる団体も多いです。今、空き店舗が結構目についていますし、空いているビルもあります。まちの活性化を図るということでビズ新宿辺りの情報などももらえるかなと思いました。

あと、寺社マップ、文化人マップ、これはもう皆さんよくご存じのとおり、新宿図書館マップ



という形で、別に多く提示する必要はなかったのですが、こういう部分もありかなというところで提示してみました。図書館にも新しい読者層を増やそうという動きがあり、ほかの切り口でお誘いするといいいのではないかなと思ひ提案させていただきました。

【 会長 】

これは要するに資料として収集したものを閲覧、提供するという意味ではなくて、マップを差し上げるといイメージですか。

【 運協委員 】

そのほうがいいかなと思ひました。もらえるものを置いておくイメージです。あと、もし新しい図書館にコンシェルジュを置かれるのであれば、まちの情報もちよっと知っておかれたら良いと思ひます。千代田図書館ではコンシェルジュの方が周りを食べ歩いたりして、ここはおいしかったとかを口頭で説明していましたので、そうした広がりがある持てるのであればということを入れてあります。

【 会長 】

分かりました。ここの部分、先生方のご意見はいかがでしょうか。従来、あまり図書館でやられてはいないような、要するにまちの情報ということになると思ひます。例えばラーメン激戦区なんていうのもどんどん変わりますね。お店もどんどん変わりますから、なかなかこういうものは、固定したものを提供していくのは難しいような気もします。

【 運協委員 】

情報が行き交っているネット上で、上手い方法を考えていくとそれなりにできるかなと思ひています。

【 会長 】

ネットにリンクをはるみたいなことになるのかなと思ひます。

【 運協委員 】

ただ、表立っては新宿のこの個所はこういうところですよと、見せていくぐらいのことでしょうか。あと、韓国料理はここ数年、人並みが多くなり新宿のすごさを体感しています。

【 会長 】

そうですね、いかがでしょうか。コンシェルジュというのはホテルでの情報提供サービスという意味もあります。図書館として、まち情報の提供はできるのではないかと思ひのですが、それをどのように提供していくか。情報はどんどん変わってしまうので陳腐になった情報は提供できないという部分もあります。

【 図書館委員 】

情報発信のためのコーナーを充実させていきたいということは、私どももそういう考え方に立っていますから、今も狭いながらやれるところはやっています。さらに新しいところに行けば、こうした情報発信のためのコーナーをやっぱり充実させていきたい。そういうスペースを広く取っていきたくて思ひています。

ただ、その場合に、そういったまちの情報をどこまで広げていくのかということ、また別の

観点から検討せざるを得ないと思っています。先ほど話がありましたように空き店舗情報などは産業振興課のほうで把握していますので、そうした情報を流していくことは非常に大切だと思っています。寺社マップとか文化人マップ、こういったところも、新宿歴史博物館で色々なデータを持っていますので、身近な図書館が発信していくということは非常に大事だろうと思っています。

ただ、刻一刻と変わってしまうデータとか、あるいは営業につながる、「おいしいラーメン屋」みたいなものは、図書館が情報提供できるのかというと、なかなか難しい面もあると思います。ただ、新宿を知る上でこの情報は知りたいというものはなるべく発信していく、そうした立場で今後どこまでできるか検討していく必要があります。こうした情報発信コーナーを充実させていきたいということは、われわれも同様に考えています。

【 会長 】

では、その次に行ってよろしいでしょうか。

(2) 区民の課題解決支援です。課題解決支援のため、公的機関や専門機関に相談する前に、地域力、マンパワーでの解決を目指し、子育てが終了した方や退職された方が中心となる相談窓口の設置です。それから、1-2地域資料ですけど、そこであげたNPO、各種団体の活動内容やイベントなどを把握しておいて、伝えられるようにしておく。公的機関や専門機関に相談する前の情報提供ということになっています。これは実際に図書館として、どこから図書館がやるのかというのは少し分かりにくい話で、今日は提案された方がいらっしゃらないので質問できないですけど。相談窓口の設置ということであれば、これは例えばレファレンスというような話になるのかなと思います。相談窓口という言葉が良いか賛否ありますが、要するに課題解決ということであれば、図書館でもレファレンスの中で情報提供とか相談とかということになると思いますが、いかがでしょうか。

【 運協委員 】

それは私ではないですが、私があげたその下の(各種団体の)活動内容把握も関係すると思います。この協議会の中で過去、図書館は色々な情報を集約しているところなので、問い合わせが来たときにその窓口を紹介して交通整理していくというのは図書館の機能としてとても大事ではないかという議論が出ました。課題解決支援のため、相談する前にこの地域力、マンパワーというのが、ちょうど私が申し上げた、この下の段のNPO、各種団体の活動、イベントなどを把握して、伝えられるようにしておくということで、ここの関わりがあるような気がします。

【 会長 】

図書館が提供するのか、図書館以外もそういう相談窓口を作るのかというのはよく分からないのですが、図書館が相談窓口としてそういうコーナーを設置するということは可能だと思います。図書館の中に図書館以外の窓口を作るということは、なかなか難しいのではないかと思います。ここは今、議論のしようがない部分ですけど。NPOうんぬんの部分ですが、今後そういう窓口を設置するという意味ですか。

【 運協委員 】

情報提供に図書館は徹するというので、ただ、こういう状況があるのですよといったときに、それならばこういうボランティアの団体があるよとか、区が登録しているNPOがありますよという、そのくらいの情報提供はできるのではないかと思います。レファレンスの範中にここを含めたらいいのではないかなと思います。

【 運協委員 】

都立中央図書館、日比谷図書館に問題解決のデータベースが出ていますね。そういうものを拡充して、どれだけ専門の方を置くかどうか分からないですが、上手にリンクをはるという形にすれば良いのではないのでしょうか。日比谷図書館にサンプルがあるのだから、日比谷以上のものは作れる。さらには、常々レファレンスの集計が出て、新宿だったら特にこういうレファレンスが特徴かなというものをうまくぶつけていくという形にすればいいと思います。1例、ここに挙げている日比谷（図書館）の場合は比較的特徴が出ていたと思いました。ああいうのを作ってみるということだと思います。直接「こういう問題はどこの部門でしなさい」とは、とても図書館にはできません。自己課題解決の力を養うため、プレゼンテーションを図書館がするという形です。

【 会長 】

では、(3)に移りたいと思います。魅力あるイベントの実施ということです。新宿にちなんだ文学、歴史などの作品をテーマに、作家などを講師とした生涯学習講座の開催。ここは、提案された方が同じ委員です。サイエンスカフェの定期的な実施、これは次の(4)情報の生産・発信・交流の支援。それから主立った国だけでなく、馴染みのない国についての政治、歴史、文化の紹介をする機会の提携とか。この三つが委員からの提案ですけれども、ここについてはもう少し詳しくお話しください。

【 運協委員 】

やはり知的活動のリーダー役としての図書館で、例えばサイエンスカフェではサイエンスに限らず、政治、経済などをテーマにしてもよい。定期的な実施だったら2ヶ月に1回でもこの日に行けば、そういった話し合いや取り組みが行われているということであつたらよいと思います。

あと、主立った国だけでなく、今回、中東問題でもいろいろな国が紹介されていますけれども、そういった国についての知識が収集しにくいことが多いのではないかなと思うので、それも国際交流の活動と重なるのかも知れませんが、図書館として国を紹介する機会をつくるのもいいのではないかなと思って書きました。

【 会長 】

講座、あるいはサイエンスカフェもそういう交流機能ということですね。それから、最後の馴染みのない国の政治、歴史、文化の紹介の機会というのは、どのようなイメージなのでしょう。提供というのは、例えば外務省がもっている情報とかがありますね。もっと具体的にこういう資料がありますという、そういうイメージですか。

【 運協委員 】

私は、もっと区民が参加しての活動があってもいいのではないかなと考えました。ひとつのボランティアになるかも知れませんが、区民が率先していろいろな情報提供を得ながら参加

して、図書館側からだけではなくて、区民も巻き込んだ活動があったらいいかなと思っています。

【 会長 】

例えば区民が具体的に何かそういう活動をするということですか。

【 運協委員 】

そうですね。これは実際に全部、図書館でやってくださいということになると、なかなか大変な活動ではないかと思います。そういったところをもっと区民の人たち、それこそ先ほどもありました、子育てが終わった人たち、あるいは時間のあるお年寄り、元気なお年寄りたちを含めて、そういった活動ができれば、もう少し具体化するのではないかなと思います。

【 会長 】

今の意見ですが、いかがでしょうか。区民の活動というものを図書館の中に入れていくという、あるいは区民の提案によって講座を行うなどですね。

【 運協委員 】

そうするとボランティア的な活動をまとめるところを、図書館に作れということですか。

【 運協委員 】

そうですね。そういった活動の場があってもいいと思いますが、それは図書館の働きとしては逸脱したものになるのでしょうか。これは具体的には分からないのですけれど。

【 会長 】

逸脱かどうかは分かりませんが、サイエンスカフェをやるということは、図書館の仕事として可能だと思います。サイエンスカフェの場合だと、これは専門家を呼ぶことになりまして、ボランティアというよりはれっきとした講座になると思います。今、原子力の問題がまた大きくクローズアップされていますけれど、そういうときに原子力の専門家を呼ぶなどボランティアというよりは、むしろ図書館側の講座開催といった部分になると思います。それから新宿の文学、歴史についても専門家はたくさんいますし、区民の中にもたくさん専門家はいると思いますので、そういう人たちとの調整をして講座をすることも可能ではないかと思います。

【 運協委員 】

今のように総括すると、講座開催の多角化というような言葉で集約できるのではないですか。もう少し市民の目線に立ったということではないのですか。恐らく、市民講座開催の多角化。

【 運協委員 】

そうですね。講座に限らずそうした活動を、区民を交えてできないかということです。もちろん、そのリーダーシップをとるのは図書館側であり、色々な働きかけもあるかと思います。

【 運協委員 】

ただ、活動もさることながら、図書館本来の資料収集で提供するという、図書館の原点を忘れて問題ではないですか。例えばNPOで活動している人だったら、そのNPOの活動が全面的に出てしまうということも、気持ちは分かります。けれども、そこはやっぱり図書館としてきちんと、駄目なものは駄目とするべきです。やはり本来もつべきもの、資料の収集と保存とか、そういうものをきちんと構築することが大切です。ほかのところができない部分があると思うの

です。活動、NPO、これは図書館の人はできない。情報の多角化といっても、原点がある。原点を忘れたら、何もなくなってしまう。

#### 【 会長 】

例えば馴染みのない国の資料提供、あるいは提示といいますか、展示といいますか。そういうことは可能ですけれども、実際にどういう国についてやるのかについて区民から提案を受けるようなことはあるのでしょうか。例えばあまり知られていない国に行った方を呼んで、お話をいただくという、そういうことも可能ではあるかと思います。全部、区民の提案でやっていくということではなく、図書館の活動というのは行政主体ですから多様なイベントを開催することが可能ではないかと思えますけれども、あれもこれも何でもできるというわけではないです。

それでは次の講座やワークショップを開催するというところで、色々な提案があります。

#### 【 運協委員 】

基本計画では、さまざまな魅力あるイベントを企画、実施していきますと書いてあります。そうであるために、というところに一応ずらっと並べさせていただいたということを、まず前程に置いておきます。

今、地震というタイミングで、例えば個人としての危機管理の講座とか、エネルギー講座は、今の状況に応じた講座かなと思っていまして、図書館としても時々刻々、社会の関心が大きなもの、あるいは図書館の独自性を出すというのであれば一般の方が誤解しやすい、あるいはほとんど知らない情報を講座としてやっていただくというのもとても大事なことと思います。

これは前も聞いたことがありますけれども、個人の自宅でもっている本はなかなか流通しないということもありますので、個人の本の交換会のために、どこかの図書館の場所だけを提供していただくということもありかなと思います。仕事関係でいえば、例えば「フリーターから社長になりました」とか「NPOをやります」など、そういう方たちの本がいっぱい出ていますよね。そういう方の中から誰か適当な方をお招きして、講座を開くというのも面白いのかなと思いました。

誰がやるのというとき、図書館がすべてやれるわけではないというのは当然のことです。新宿区立図書館にはサポーター制度があり、お話し会や本の整理等のほかにも、「しんじゅくの図書館2010」（図書館年報を指す。ホームページ「新宿区立図書館の動き」参照。）81ページ、図書館サポーター制度実施要綱というのがあるのですが、この要項とは別個にもう少し細かくどういうことをやってほしいという図書館側から出ているものが20項目ぐらいあったのではないかと思います。その中に色々なイベントだとか、人形劇などがあります。なるべく図書館の方たちが本来の業務に支障をきたさないような形でサポーターを上手に活用するという方法は、知恵を絞ればいくらでも出てくるのではないかなと思っています。

あるいはそのサポーターはまた外に募集することになって、「われこそは」と思う方が、結構いると思います。図書館に大変な仕事をさせるのではなくて、色々なボランティア団体にそれを専門的にやっている人がいますので、そういう地域の方たちを生かすという意味でも、せつかく新宿区で育てられている団体の方にお問い合わせして、こういう方針でやってくれませんかというのもありかなと思っています。

【 会長 】

講座や講演会開催というのは、スペースとしての問題があるのではないかなと思うのですけれど。スペースということがまず前提ですよ。

【 運協委員 】

そうです。中央図書館であれば4階のフロアを上手に活用されたら、それなりのものができるのではないかと思います。とても魅力的な図書館の活動が可能かなと思っております。

【 会長 】

分かりました。その次です。「(4)情報の生産、発信、交流の支援」というところでは、NPO団体と情報の一元化を図り、利用できる環境を整えるということです。これは先ほど地域連携というところの話と関連するのかなと思うのですが、具体的にどのようなサービスと考えられていますか。

【 運協委員 】

一つのアイデアとして、一括アクセスというのは、ネット上でアクセスできるようなそういう形です。今、新宿区内では協議会に入っている団体もいれば、そうでない団体も結構多いです。その人たちはその人たちで小さなグループを作ったりしていますから、そういうところをつなげる何らかのネットワークができないかというのが、情報の一元化を図るという主旨です。例えばリンクをはるなど。

【 会長 】

先ほどの話題とすりあわせできそうですね。時間の関係で次の項目3に行きたいと思います。子どもへのサービスということですが、まず3項目になります。(1)親自身の能力アップ支援のための学習講座の開催。これは子どもというよりは親ということになりますが。それから子ども向けの各講座やワークショップの開催、それから絵本作家クラブ会員の絵本、紙芝居の展示会、国内在住の方の絵本、童話の展示会ということです。今の三つについて、委員お願いいたします。

【 運協委員 】

これは一緒に説明しますが、各種イベントの実施と本と触れ合う環境整備として提案します。例えばくどうなおさんのような高名な、子どもたちが大好きな作家さんをお招きして、詩を作ったり。あと、絵本作家クラブ会員の方の絵本と紙芝居の展示会というのを中央図書館でやりまして、とても好評でした。子どもたちに本に親しんでもらう活動をやっている方を掘り起こすという意味では、とても意義のあることではないかなと思いましたが、出させてもらっています。

【 会長 】

いかがでしょう。ほかの運営委員の方、ご意見ありましたら。そういうワークショップ開催とか、資料の展示という、そういうことですね。よろしいでしょうか。

では次ですが、(2)学校等との連携、協力ということです。小学校における総合的な学習の時間を活用した図書館見学の実施ということで、未就学児童向けのプログラムとして、親から離れて紙芝居や本を読む活動を行い、その間に親が自分の好きな本を選べる企画の実施とい

うことです。

それから、本を媒体にしたワークショップ開催ということですが、みんなで演じているディダリク、子どもたちの朗読ということですが、ここについていかがでしょうか。

【 運協委員 】

まず質問で答えていただける委員の方がいらっしゃらないようですが、2行目の未就学児童向けプログラムとして、親から離れて紙芝居や絵本の読み聞かせを行うというのは、誰が読み聞かせを行うと想定しているのか分からなかったのですが、ボランティア団体の方でしょうか。2～3行目が小学校の活動として、例えば子どもが読み聞かせを行うなどを想定しているのでしょうか。

子どもが子どもにというのは最近よく、色々な実践が色々な教科の分野でもやられています。ここには二つのことが書かれていると思うのですが、2行目はもし未就学児童、低年齢の幼児が対象であると、ちょっと違うのかなと思います。でも、幼稚園、保育園も広い意味では学校の一環として今カウントされているので、そういう意味でのことなのか、ちょっと不明でした。

【 会長 】

ここについては提案された委員が欠席されているので何とも言えないですが、仮に未就学児童として、未就学児童が未就学児童に読み聞かせというのは難しいのではないかなという気がいたします。

【 運協委員 】

今、新宿の図書館の児童室は、子ども向けに読み聞かせをやっていますね。

【 図書館委員 】

はい。こども図書館では、毎日午後3時から開催しています。それに加えて、日曜日の午前11時30分からは特に3歳児までの小さい子向けも実施しています。区の職員だけではなく、サポーターの方とか、専門学校生とかの協力を得て行っているところです。

普段、午後3時から行っているお話会の様子を見てみますと、割と保護者の方と一緒にという形でもなく、子どもは本読み手の近くにかかり寄ってきて見えています。

【 会長 】

親はそこにはいなくても大丈夫ですか？

【 図書館委員 】

お母さんが子どもに向かって、聞いてきなさいというふうに案内する方が多いですし、ちょうどお話の部屋のそばにファミリー文庫という家族向けの本棚がありますので、そこを見ている親の方もいらっしゃいます。

【 運協委員 】

世田谷図書館では、お子さんだけ参加しています。お母さん方はカフェで談笑しているという感じです。ただ、昔よりは、定期的に行うなど拡充しているというのは感じています。親子別々ということを理解してもらえば構わないと思います。

【 会長 】

これは未就学と別に小学校が入っていますので、総合的な学習の時間を活用した図書館見学、これは実際にやっていますか？

【 図書館委員 】

実際には図書館見学ということで小学校6年生、5年生は何人か受け入れています。小学校2年生ぐらいで地域の公共施設を知ってもらおうとする機会もあり、そのコースの途中でこども図書館に寄って、図書館のほうから15分ぐらい本を紹介したりすることもあります。

【 会長 】

総合的な学習の時間の中で見学（という形式）は可能ですか。

【 図書館委員 】

総合的な学習では各学校のほうで子どもに何か課題を与えて、それを解決するため、学校の図書館を使うというのはよくあると聞いています。

【 会長 】

この場合、あくまでも区立の図書館というのはいかがですか。

【 運協委員 】

学校の図書館だけでは足りなくて、例えば区立の図書館のほうに行かなければならないというように、学校が判断してもらえれば、図書館のほうはもちろん受け入れる態勢は十分できています。

【 会長 】

現実問題として、総合的な学習の時間の中でやっているということはあまりないのですか。

【 図書館委員 】

そうですね。今のところそういう総合的な学習の時間を利用してというのは聞いてないです。

【 会長 】

委員はその辺はいかがですか。

【 運協委員 】

うまく学校の読書活動、調べ学習とリンクさせるなら、活動の時間枠を活用することも可能だろうと思うので、やっぱりそれは学校自身のカリキュラム編成や学習指導と図書館側の協力という形で初めて実現すると思います。

上に、親自身の能力アップ支援のための学習講座の開催というところがあるように、学校に関しては、先生の子どもへの、情報を活用した、図書館を活用した学習支援のための能力アップの体制というのがとられているのかどうか、それも可能であれば何らかの形で知っていただけたらいいのではないかと思います。司書教諭の方とか、学校司書の方と、図書館のレファレンスを担当している方たちの、例えば交流とか、研修のようなものがあるのかどうかとか、そういったことにちょっと関心があります。

【 図書館委員 】

学校の先生に対しての図書館からの説明につきましては、昨年度の8月頃、こども図書館に各小・中学校、幼稚園等の、実際に図書を担当している先生に集まってもらい、その中で図書館か



らいろいろな説明という時間を設けました。区立図書館、こども図書館の本の内容とか、団体貸し出しの制度をまだ分からない、よく利用できないという学校もあると聞いていますので、研修を行いました。今年度も新宿コズミックセンターで開催し、図書館の職員が説明を行ってきたところです。

また、親自身の能力アップ支援のための学習講座の開催ということで、こども図書館のほうではちょうど、親力向上のための講座というのを21年度から実施しております。「読書トレーニングで脳トレ」というテーマをつけて、まさに小学生、または未就学児童の保護者の方を対象に講座を開催しました。特に今年度は先生が2時間、話をするだけではなくて、事前に参加人数等をこちらで把握し、絵本を同じ冊数分そろえて、その絵本を先生と保護者の方が会場で一緒に読み、それについて話をするという、ワークショップのような形で年4回開催したところです。この講座は23年度も続けていきたいと思います。

#### 【 運協委員 】

総合的な学習の時間を設けた、当時の勢いというのはまったく、学校図書館には無くなってきたという現状です。実は今年の2月に日本学校図書館学会がありました。前回4年前に全国的な規模の大会を戸山図書館で開きましたよね。その方が委員になって、新宿の図書館の現況というのを全国的な形で、校長先生、図書館司書、司書教諭うんぬんを規模にした調査のデータが出ました。

まず、教育委員会に学校図書館を担当される方というのは1人しかいない。だから、中央図書館、こども図書館との対話がほとんど切れているということです。それで図書館に言うことではないから、教育委員会にいうと、1人しかいないから勘弁してくれと言われます。ですから、もう少しうまく連携してもらえれば、(担当が一人しかいなくても)もう少し違った形で学校図書館の係りの方が参加できるのかなと。

それとやはり小さいときから、夏など何かの期間にローテーションを組んで、新宿の最寄りの図書館の見学を計画して学校図書館の部会に校長先生が集まったとき成果を申し上げる。見学することでお子さんが図書館というものを身近にできるのではないかなという感じがします。せっかく各地域館でいい活動をしていながら、それを子どもたちが目の当たりにしていない。自分も学校図書館に行ってみようということを直接感じられる機会を年間計画の中に入れ込むことが必要ではないでしょうか。

それと先生方は、今、現場は英語の時間が加わりましたから右往左往して、読み調べなんとかうんぬんはとても対応できないと言っています。教育委員会も同様です。現状はそうだとすると、やはり図書館に来るお子さんはどんどん育つけれど、来ないお子さんとはどんどん差が生まれる。格差社会ではないが、それをなるべく図書館側が縮めるようにしていただきたいと感じました。こんなことを言ったら叱られますが、調査の結果、新宿の校長先生の認識が23区で一番低かったです。反論があれば、お待ちしております。

#### 【 図書館委員 】

私ども、学校図書館を支援するというので、司書を4名派遣しています。学校図書館の現状

を踏まえて、あくまでも支援するという立場であったわけです。21年度から実施していますけれども、支援するだけでは限界があると感じています。やはり学校図書館はみずから、自主的に運営していくことが求められますので、23年度は学校図書館の充実に向けてモデル事業ということで予算をさらに充実していきますし、24年度以降についても、教育委員会全体で学校図書館の充実に向けて話し合っていますから、また報告していきたいと思います。

【 運協委員 】

23区の中で4人のサポート体制ができているというのは少ないですよ。そういう恵まれている点を学校図書館は生かさなければならない。その辺りを公の席で教育委員会にお話しいただければいいなと思います。

【 図書館委員 】

今、学校図書館の充実に向けて検討していますから、そういったところが具体的になったところで、また報告させていただきたいと思います。

【 運協委員 】

そのようにお願いしたいと思います。

【 会長 】

この部分ですが、学校図書館と区立図書館との連携をもっと密にしていかなければいけないというのはどこでも言われていることです。この新中央図書館構想の中に盛り込まれているから、新中央図書館ができないとそれができないというのでは困るので、それ以前から取り組んでいただけだと思います。

最後の「子ども、お笑い」というのがありますがこれはどういう意味でしょうか。

【 運協委員 】

落語の本、漫才の本など色々な本がこども図書館にはありますけれども、自分がやってみたいものでモデルを作っておいて、その中で自分が楽しいと思えることをカッコ書きにしておき、そこに自分がこれは面白いという言葉遊びみたいなものとかを書き込んでもらい、それを実際に演じてもらって行って、実はルーツはこの本のここにあるということをやったりしています。実際これは小学校でやっているものです。

【 会長 】

そういうようなワークショップということですね。

【 運協委員 】

好きになってもらうということを基本にしています。

【 会長 】

時間も迫っていますので、次の子育て支援というところです。核家族化が進む中で、高齢者が若い人に知恵を伝えるための機会の提供という、これは具体的にはどのようなことですか。これは図書館との関わりというのはどういうことでしょうか。

【 運協委員 】

これも一つのイベント的なことで考えたのですが、やはり核家族化の中で誰に相談したらいい

か分からない若い人たちがいるのではないかなと思います、もちろん図書館として資料提供ということもあるかと思いますが、実際にその地域の経験者の人たちがそういった機会に参加すると、若い人たちと接触できるのかなと思います。

【 会長 】

子育てという部分について、高齢者の経験、知恵を活かすという意味ですね。（「はい」の声）  
まとめていきますね。親子を対象とした、こうしたワークショップということで、これは子育てということなのか、細かいところは今抜かしていただきますが、色々なことが書いてありますけれど。子育てという意味はいかがでしょう。

【 運協委員 】

子育て支援にも色々なタイプがあると思います。その中で図書館としてバックアップできるものは何だろうと考えたときに、相談支援かなと思います。これもぜひ色々な各団体も活用していただいて、絵本、紙芝居コーナーだとか、手作り絵本を作ったりとか、親子の悩みを本で解決しようというワークショップをやったりというのがあるのではないかとということで提案させてもらいました。

【 会長 】

提案の文章の中ではそれ以外にこんなこともあるんだぞ、ということですね。

【 運協委員 】

親子でいらしたときに、やはりお子さんが小さいと、講習会というのはなかなか難しい。子どもだけをケアするようなお部屋を作って、お母さんだけに講習会をやるというのもひとつあるのですが、親子一緒にできることでいうと、子どもはじっとして聞いていませんので、こういうワークショップ的な形でやっていったほうが、お母さんも喜ばれます。ワークショップ手法を取り入れられたら、ボランティア団体としての支援教育というのができるのではないかとということで、入れさせていただいています。

【 会長 】

分かりました。この部分、よろしいでしょうか。これをどのように今後生かすかということはまだまだこれからなのですが、ワークショップが今回の提案の中にはたくさん含まれていました。区立図書館が行えること、あるいは図書館の施設を使って、NPO、ボランティア団体が行えること、あるいはほかの新宿区内のさまざまな施設が提携するというようなことがあって、これから話し合い、来年度以降に話し合うことの中に、テーマとして出てくるのではないかと思います。

今日はもうひとつ、事業評価報告がありますので、そちらのほうに移らせていただきたいと思います。平成21年度新宿区立戸山・北新宿・中町図書館の指定管理者業務一般の事業評価です。ではよろしく願いいたします。

【 事務局 】

それでは、事務局のほうから説明させていただきます。すでにお渡ししています平成21年度新宿区立戸山・北新宿・中町図書館、指定管理者の管理業務にかかる事業評価報告書をご覧ください。こちらに基づいて説明させていただきます。

区で行う事業評価は、図書館サービスの成果の達成度、運営状況を明らかにし、図書館運営の効率化、および図書館サービスの向上を図るために実施するものです。事業評価は前年度の事業評価に基づいて毎年度実施しているのですが、指定期間中の2年目とそれから最終年度については、外部委員を中心とする事業評価委員会というものを立ち上げて、こちらのほうで実施しています。戸山・北新宿・中町図書館は今年度2年目に該当するため、外部委員を中心とする事業評価委員会による評価となりました。この事業評価の結果や改善点を今後の事業運営に反映させて、さらなる図書館サービスの向上につなげていきます。

次は評価の概要です。外部委員を中心とする事業評価委員会の構成、日程、評価項目、評価資料等について記載されています。なお、事業評価の方法としては、各評価項目および総合評価について、「A大いに良好である。」「B良好である。水準どおり適正に行われている。」「C軽微な改善を要する。」「D重大な改善を要する。」の4段階で評価しています。

次は、今回評価の対象となります、戸山・北新宿・中町図書館の施設の概要となっています。

続いてが評価結果となります。評価資料としては、平成21年度の各図書館の事業報告書とあわせて、戸山・北新宿・中町図書館で行った利用者のアンケート、各館の自己評価、それから事業評価委員会により、それぞれ3館を視察しています。そしてヒアリングも行っています。評価については、各委員にまず個別評価をしていただき、事業評価委員会で協議をして、事業評価委員会としての評価をまとめて、項目別に評価を行います。あるいは各館の総合評価、それから各館の総括を行っています。

続いて個別の図書館の評価になります。まず、戸山図書館の事業評価となります。他の2館、北新宿と中町については全部で13項目なのですが、戸山図書館は視覚障害者等サービスの拠点館と位置付けられていますので、この項目が追加されていて、全部で14項目となっています。この14項目のうち、段階評価でAが5個、Bが9個となっています。総合評価としては「B水準どおり適正に行われている」と評価されました。特に、こちらの2の(3)にあります、子ども読書活動の推進については地域の児童、生徒に総合学習、自由研究や夏休みの課題を出展させて、審査、表彰する調べる学習賞コンクールなど多くの児童向け事業が実施されていることが高く評価されています。

また、先ほど申し上げましたように、戸山図書館は新宿区立図書館における視覚障害者等サービスの拠点館となり、該当項目の4の(2)、こちらにおいてボランティア団体の新宿区ポエム図書館研究会との連携により、適切に事業が実施されていて、21年度についても視覚障害者等資料の貸し出し点数、それから録音図書作成数、改善数では、いずれも直営時代であった平成20年度を上回る実績を示し、高く評価されています。

5番の執行体制および管理体制の(1)の内部体制において、誰がどのように意思決定をしたのかが明文化されていない点があり、5番ですが職員の資質の向上の項目において、図書館として改善すべき課題に対応した研修を行い、その受講結果を図書館の現場にフィードバックできる確かな仕組みが求められるなど、今後、検討が必要になる部分もありますが、総じて適正に行われていると評価されています。

続きまして、北新宿図書館の事業評価となっています。こちらも全13個の項目のうち、Aが4個、Bが9個、総合評価としては「B 水準どおり適正に行われている」となりました。特に、こちらの2の(3)です。2の(3)の子ども読書活動の推進については、小学生の親子を対象とした大型書店見学会、「本屋さんへ行こう」、あるいは放課後子ども広場での出張お話し会など、多彩な児童向けサービスの実施が高く評価されています。

また、4の(1)番ですが、事業計画で提案した新規事業では外国語のお話会など、地域の特性を踏まえた事業や、土のリサイクルに関する講演、京言葉による源氏物語朗読会など、子ども向け事業以外の一般向け事業を実施していることが高く評価されています。

5の執行体制および管理体制ですが、(1)内部体制において、先ほど戸山でもありましたけれども、誰がどのように意思決定したのかが明文化されていない点があったり、また(5)の職員の資質の向上において、図書館として解決すべき課題と関連した研修の実施が求められたり、レファレンスや多文化サービスの充実に向けた職員の資質の向上が求められるなど、今後、検討が必要になる部分もありますが、総じて適正に行われたと評価されています。

続いて中町図書館の事業評価です。こちらも全部で13項目あります。そのうちAが3個、Bが9個、Cが1個、総合評価としては「B 水準どおり適正に行われている」です。特に2の(3)、子ども読書活動の推進については、児童室の飾りつけなどの季節の演出をしたり、あるいは児童室のホワイトボードに子どもたちがほかの子どもに勧めたい本を提示したり、みんなのお勧め本というコーナーを設置したりしました。また、戸山図書館と同一企画である「調べる学習賞コンクール」など数多くの児童向け事業が実施されていることが高く評価されています。

また、3の(1)なのですが、明るい雰囲気づくりでは、こちらの図書館は地下1階にあって、エレベーターはないという、非常に悪い立地条件ですが、雑誌コーナーを使いやすいするために、雑誌の配置を館内に表示したり、あるいは1階の入口にコイノボリ、クリスマス、桃の節句といった、季節の演出を掲示したりするなど、入りやすく使いやすい図書館にするための努力を行っていて、こういった点が高く評価されています。

なお、2の(2)レファレンスサービスに1点だけ「C」がついておりますが、利用者からのレファレンスの質問に対して、質問受付シートを使用しないケースが見受けられました。今後、シートの使用を徹底させるとともに、レファレンスの質問に対しては正確に回答できたか、点検するシステムの構築を求められたため「C 軽微な改善を要する」としました。この点については、第2回の事業評価委員会で、中町図書館とヒアリングを行ったときに、事業評価委員より指摘があり、現在ではレファレンス受付シートは常時使用されるようになっています。

また、5番ですが、執行体制および管理体制の(1)内部体制において、セルフモニタリングの結果を記録として残しミーティングを評価するなど、共通理解を図るための仕組みを整えていく必要があることが求められました。また、(5)職員の資質の向上において、図書館として解決すべき課題と関連した研修を行い、その結果を図書館の現場にフィードバックする確かな仕組みが求められました。今後、検討が必要となる部分もありますが、総じて適正に行われていると評価されています。

次にまとめです。先ほど三つの図書館の評価をご覧いただいたのですが、そちらの評価を踏まえて、事業評価委員会として総括を各館とも行っています。

まず、戸山図書館です。戸山図書館については併設施設です、戸山生涯学習館との連携事業の実施など複合施設の特徴を生かした事業展開が高く評価されています。また、平成21年度は直営時や20年度と比較しますと、新規の登録者数が36.2%増、個人貸出冊数も30.4%増と大幅に増加しております。図書館利用が活発化されていることが確認できます。また、戸山図書館は視覚障害者等サービスの拠点ですが、平成20年度、直営時であった時点での障害者用資料の貸出比率、録音図書を作成数、対面朗読の回数、いずれも直営時代20年度を上回る実績を示しています。こういったところが高く評価されています。また、平成22年に実施した利用者アンケートにおいても、目的達成度の項目で「満足」、「やや満足」と答えた方が合わせて82%に達し、利用者満足度は高いと言えます。また、23ページに参考資料として掲載していますが、21年度の収支報告についても適切な執行状況が確認されます。こうした状況から、戸山図書館については適正に運営されていると評価されています。

次に北新宿図書館です。北新宿図書館については書店との連動型ブックフェア、小学生親子を対象とした、大型書店見学会「本屋さんへ行こう」など、指定管理者の代表事業の特徴を生かした事業が実施されています。また、家庭のプランターなどで使用した土の再利用方法を紹介する、「簡単、土のリサイクル」。それから源氏物語、夕顔の巻を朗読する「京言葉による源氏物語朗読会」といった、一般利用者を対象とした事業はいずれも定員を超える応募がありました。このような利用者サービス事業が実施されていて、平成21年度と直営時の平成20年度を比較しますと、新規登録者数、個人貸出者冊数ともに14.7%増加し、直営であった前年度を大きく上回る結果となっています。先ほどの戸山図書館でも申し上げましたが、来館の目的達成度は北新宿図書館においても「満足」、「やや満足」と合わせて82%に達し、利用者満足度は高いということが言えます。

また、収支報告についても適切な執行状況が確認できます。また、図書展示を年間19回と非常に数多く実施していき、その中でも利用者から好評であった、「東京散歩ウォーキング」については展示期間終了後、常設展示に移行するなど、利用者へのニーズの対応も迅速にされています。以上、お伝えした状況から、北新宿図書館についても適正な運営であると評価されています。

最後、中町図書館です。中町図書館については地下1階にあるという、立地条件があまり良くない図書館なのですが、子ども読書活動の推進に関する取り組みが高く評価されています。戸山図書館と同一企画であります、「調べる学習賞コンクール」は初年度にもかかわらず112点の応募がありました。平成21年度は直営時の20年度と比較しますと、新規登録者数4.4%増、個人貸出冊数が14.7%増加して、直営であった前年度を上回る結果となっています。先ほどから申し上げています利用者アンケートは、中町でも実施していき、目的達成度の項目については「満足」、「やや満足」と合わせて91%に達し、利用者満足度の高い結果となりました。21年度の収支報告についても適切な執行状況が確認できます。

中町図書館は館内スペースも大変狭いのですが、その中で図書展示を企画として年間14回実施していて、またそのパスファインダーを作成して、希望者に配付するなど、情報発信にも力を入れています。先ほどの項目別の評価のところでも触れたとおり、レファレンスのあり方について軽微な改善を要する点もありましたが、総じて適正に運営されていると評価されています。

以上、簡単ですが、平成21年度の戸山、北新宿、中町図書館の指定管理業務に関する事業評価の説明を終わります。

【 会長 】

今の報告について、何かご意見、ご質問はありますか。

【 運協委員 】

私の大学も3館ある中で2館が完全業務委託にしているものですから、この評価の項目や何かで、慣習は違えども、大変勉強になりました。ありがとうございました。

それと1点、これは内容についてではないのですが、3館の収支が出ていますね。その中で、北新宿だけが収支報告の収入報告と支出報告の数値が違うのですが、どうしてなのかなと思いました。

【 事務局 】

もともとこの金額の中で、指定管理者の収入として計上し、この金額が北新宿図書館の収入としてあったのですが、実際、北新宿図書館のほうで事業を実施し、人件費も含めて管理、運営に要した金額として、これだけかかったということですので、若干の余りが出たということです。

【 運協委員 】

では収入というのは、図書館が会社の運営はこの金額の中でと献上したお金ですね。

【 事務局 】

そうです。図書館のほうから、指定管理費としてお渡ししたものです。

【 運協委員 】

分かりました。ありがとうございました。

【 会長 】

予算の中で余ったということですね。では私から質問します。北新宿図書館の実績を見ますと、レファレンスの実績が全部マイナスになっていますが、これはどういうことなのでしょう。ほかはみんな増なのですが、ここだけがマイナスとなっていますね。

【 運協委員 】

ただ、口頭で受けて、レファレンスをしたならば質問の内容にもよります。レファレンス件数が29.3%減の場合も。何か事情がありますか。

【 事務局 】

数え方の問題もあると思うのですが、逆に戸山図書館ですと非常にレファレンスの件数が増えているようなところもありますので、何を以てレファレンスというかの基準を各館できちんと統一していく必要が求められるのかなと思っています。

【 会長 】

戸山と著しい違いがあるのでこれだけ見るとびっくりしますね。やはり件数の数え方を統一していかななくてはいけないです。

【 運協委員 】

先ほどの議論で一步進んだ、複雑なデータベースというのは、どのくらいまでのものか私もここは楽しみにしています。

【 会長 】

ありがとうございました。ほかにご質問等ありましたら、よろしいでしょうか。

そろそろ予定した時間となりました。図書館運営協議会を終了いたします。まだ地震が続いていますので、これからも皆さん、ぜひ気をつけてください。それから来年度、この運営協議会自体は継続されますけれども、委員の改選とかもあるかと思えます。私ももう2年になりますが、皆さまのご協力ありがとうございました。

では、第4回の運営協議会を閉会とさせていただきます。

【 図書館委員 】

最後に一言よろしいですか。委員の皆さまには2年間熱心にご議論いただきまして、誠にありがとうございました。新しい中央図書館の建設が決定したことに伴いまして、この協議会委員の皆さまにはこれからの図書館のあり方について多くの貴重なご意見をいただきました。私どもは、皆さまからいただきましたご意見を今後の検討に生かしていきます。それとともに各方面における、皆さま方の今後ますますのご活躍を祈念いたしまして、御礼の言葉とさせていただきます。皆さん、どうもありがとうございました。

(了)